

会 議 記 録

会議名称	第4回社会教育委員の会議
日 時	令和元年12月11日(水) 午後5時33分～午後7時36分
場 所	西棟8階 第9会議室B
出席者	委員/石田、朝枝、南、檜枝、赤池、天野、内山、笹井 区側/生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、社会教育センター所長、生涯学習推進課長代理(管理係長)、社会教育推進担当係長(社会教育主事)、教育連携担当係長(社会教育センター社会教育主事)、管理係主査、管理係主任
配付資料	<p><配付資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 (写) 新基本構想の策定方針について 2 第51回杉並区区民意向調査 区政に関する意識と実態(要約版) 3 (案1) 令和元年度第2・3回社会教育委員の会議 会議記録(案) 4 (案2) 令和元年度第2・3回社会教育委員の会議 会議記録(案) 5 検討課題について <p><参考資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 すぎなみ大人塾とは何か 2 すぎなみ社協 No.193 3 すぎなみ教育報 No.234 4 すぎなみ教育報 No.235 5 杉並区 冬の天文イベント 6 令和元年度区民参加型展示「野鳥」 7 すぎなみ教育シンポジウム2019「学校の棚卸し」 8 広報すぎなみ No.2263 9 とうきょうの地域教育 No.137 10 第56回東京都公民館研究大会開催要項 11 文部科学省事業「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」 <p>※委員のみの配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(写) 東京都立高等学校入学者選抜における携帯電話等の扱いについて(石田委員より)
会議次第	<p>開会</p> <p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新基本構想の策定方針について 2 区政に関する意識と実態(第51回杉並区区民意向調査)について 3 その他 <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議録について

	2 検討課題について III その他 ○次回会議について 閉会
--	--

(意見要旨)	
○議長	それでは、社会教育委員の会議を始める。初めに、部長からご挨拶を。 (生涯学習担当部長 挨拶)
○議長	続いて、まず資料の確認を。 (社会教育推進担当係長(社会教育主事) 説明)
○議長	では、1番目の報告事項、新基本構想の策定方針について。
○社会教育推進担当係長(社会教育主事)	この度、杉並区の新基本構想策定方針が出された。これに沿って教育委員会でも教育ビジョンを今後検討して進めていく。 新基本構想は令和4年度始動となっており、策定スケジュールは令和3年5月を目途に検討するので、教育ビジョン推進計画もあわせた歩調をとると想定される。具体的な方向性とその手続については、また適宜、報告する。
○議長	基本的なことがわからないのだが、基本構想と総合計画と実行計画は違うのか。
○社会教育推進担当係長(社会教育主事)	基本構想は、考え方を示すもの。そのもとで、向こう10年間の進捗を見きわめた計画が総合計画。その内訳の、おおむね3カ年ずつぐらいの区切りをつけたものが実行計画である。
○議長	社会教育法によれば、社会教育計画をつくることになっており、実際、東京都では生涯学習推進計画が作られている。杉並区は作らないのか。
○社会教育推進担当係長(社会教育主事)	教育行政のマスターコンセプトとなる教育ビジョンのもとで、教育振興計画に位置づく教育ビジョン推進計画がある。この中に社会教育の分野、学校教育の分野を問わず計画化するというやり方を杉並はとっている。 教育ビジョン推進計画が社会教育行政ないし、社会教育全体を仕切るということでは、補い切れない部分もあるかと思うが、そういった個別部分についての扱いは、別に意見を聞きながら、年次計画で具体化を図っている。
○議長	では、次の報告事項は、区政に関する意識と実態(第51回杉並区区民意識調査)について。
○社会教育推進担当係長(社会教育主事)	毎年度、区政の実態、ニーズ把握、区の施策の評価について、区民の意向を確認するために実施している。 教育委員会の社会教育の領域の中では、2番の「健康と医療、社会参加活動状況について」項目で指標をとっている。 今回、注目しているのは、「取り組んでいる活動はない・活動できない」の38.9%という数字である。ここを選択するパイを減らせることができない

か。どの活動かではなく、いずれかの活動によってコミュニケーションしたり、つながりをつくったり、地域デビューをしたり、社会参加したり、こうしたことを進めるためには、障壁を払拭していくことが今は重要ではないかと考えている。

○議長 対象者は無作為抽出による1,400人とあるが、年代別あるいは地域別ぐらいで、サンプル数をきちんと平等に分けないと、杉並区の人口57万分の1,400では偏るのではないかと。そして、これがこう増えている、あるいは減っているという縦断データほうが大事だと思うが。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事） 今後、何か機会を得たら、眺められるようにはしていきたいと思う

○議長 では、3番目、その他について。

○生涯学習推進課長 郷土博物館開館30周年記念事業「陽明文庫名品展 豫楽院近衛家瀨の風雅」を実施した。来館者数は、31日間で4,000人ぐらい。なかなか一日平均100名を超えることは難しく、過去に10事業あったかどうかであるが、その一つになった。

先程話のあった意向調査で、「文化・芸術活動の有無」の項目を見ると、今回の中心テーマである茶道は4.7%でそう多くないが、今回のことは伝えるべきところに伝えるための努力もしてきたことがあり、いかに多くの方にいるいるなところから来ていただくかということでは、ある程度成功したと思っている。

○議長 ありがとうございます。それでは、2番目の協議事項に移る。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事） 前回までの委員の皆さんの自己紹介を兼ねた課題提起内容を踏まえ、議長からのご提案のもと、区民や地域にあってこの社会教育の今の状況やこれからの課題を検討していきたい。

○議長 前回まで各委員から提起していただいた話題の中から論点を絞ったので、もう少しお話しいただき、ほかの委員の皆さんの自由なご意見もいただきたい。

では、1番目の論点「地域での実践は実践者のキャリア形成とどのように関係しているのか」について、〇〇委員から改めて問題提起をお願いします。

○委員 社会は大きな変革期に来ていて、その背景には、文明や文化、ITの変革がそれを突き上げていることがある。そういった社会の構成から二層化すると言われているが、その受け皿として支えていく場所は、間違いなく地域になってくると思われる。

どう支えるかということ。そして、その多様な人たちのどこに主軸を置くかといえば、やはり働きたいと思う人が働けるような場所づくりを骨格として考えた上で何をするか考えていくべきではないのかと思っている。

この地域で生きていく人たちのキャリアを形成する上で、地域は絶対必要条件になると思っている。

○議長 もう少し詳しくとかご質問があれば。

○委員 時代で年代構成が変わり、平均寿命も変わり、子供たちはものすごく減った。年代構成が今までに経験したことがないような社会になる中で、自分たちで自立をするということが大事だと思う。

○委員 アベノミクスバブルと呼ばれているような状況で数字は出ているが、学生の求人倍率は戻っていない。つまり、景気は回っているけれど、人は要らないという時代になってきている。何を主軸に考えるかというときに

は、そういう社会が来るということを前提にしておく必要があると思う。

- 委員 本来であれば、生活しているのは地域である。だけど、サラリーマンは地域では生活していない。ただ、寝に帰るだけである。だから、地域に限定してしまうのは、何かへんであると思う。

キャリアとは、ものすごく個性的、個人的なもので、その人に合ったものに出会えば非常に幸せになる、うまくいく。だけど、出会わないとうまくいかない。

- 議長 そのキャリア形成というものを、日本の場合は仕事に捉える。例えば子育てであれば、地域でいろんな活動をして、子育て支援もやっている女性が履歴書に書くと、何もキャリアがないと言われがちである。

アメリカではそうではない。仕事以外でも、社会的にすごく価値ある活動をしていればキャリアである。まず、キャリアの概念をきちんと広げて捉える。それを、一つの評価につなげていくということが大事だと思う。

- 委員 そういう観点から見ると、地域というコミュニティで活動することは、日本的な狭い意味のキャリアとは結びつかない。その辺の論点は、雇用の問題と今の問題はちょっと違うので、重ねない方がいいように思う。

- 委員 今は大企業であっても頼りにならない。いい大学に行って、いい企業に入ったところで、その人の一生というのは全然保証されないわけではない。それなら田舎に行って、マルチタスクで、年収150万でも幸せな生活を送れるかもしれない。いい企業に就職して、サラリーマンをやるというような昔のイメージでは、もうキャリアというのは捉えられない。

- 議長 その人自体が豊かになる。いろんな形で膨らんでいくのがキャリアだと思う。そうなったときに、地域の実践が、すごくプラスになる。

- 委員 ただ、やっぱり多くのお母さんやお父さん向けにお話しさせていただくと、自分の高度経済成長期の、いい大学に行って、いい企業に入ることが自分の人生を豊かにしてきたから、それを子供に求める方たちがすごく多い。

時代がこんなに変わってきているということに薄々気づいているけれども何か否定したい。だから、これだけ子供に投資したのに、子供がこんな状態になってすごく悔しいと実際に言うお母さん、お父さんは結構多い。

それから、学生向けにキャリア講座をすると、いい企業に入るというのが自分の就職だと思っている方がすごく多い。そして、女性ならば、男性と変わらず働きたい。それはすばらしいことだけれども、いろんな状況があって、1回離れたとしても、また別のキャリアという形ができるよ、しかも子育てというものがキャリアになる時代になってきていることを話すと、そんな考え方は知らなかったと学生がびっくりする。

地域が担えるとすれば、こんなに時代が変わってきていて、キャリア形成にも今までのものではない別な形の幸せもあることをお伝えできるような場があってもいいのかなと思う。

- 委員 親御さんたちは、非常に苦しい時期を過ごしてきて、彼ら、彼女、特に女性なんかは、「私みたいにならないために、せめて」と言う。やっぱり自分たちが苦労してきたからこそだし、家庭教育だの教育のプレッシャーが強いからこそ、そうになってしまうわけで、私は社会の側に非常に課題があると思っている。

- 委員 私と一緒に活動している人たちも、やはり余裕のある人たち。そう

- じゃない人たちはたくさんいることを踏まえた上でどうしていくかというのは考えないと、二極化は絶対にどんどん広がっていく。両方考えていくというスタンスは、私は必要ではないかなと思う。
- 委員 最終的には杉並区に住む人の幸福度指標みたいなものが上がればいいと個人的には思っている。ここの区に住んでいてよかったとか、この地域に住まいがあってよかったというふうに。現状は苦しくても、杉並にいたから新たな生きがいが見つかったとか、こういう楽しみが手に入れられたとか、そういうことで自分の幸福度指標が上がればいいと思っている。
 - 議長 それでは、次の「地域での科学教育振興の意義と役割」について○委員、改めて問題提起をしていただきたい。
 - 委員 どうしても学びというと、一般的には学校での勉強というような狭い意味にとってしまうけれど、学びに非常に広い意味があり、いろんな場面で学んでいるわけである。今は、答えが早く正確にできる子とそうではない子にすぐ分けられてしまうが、実際の生活の中で学ぶ学びというのは、みんなが基本的に有能で、自分なりに学んでいけるものであると思う。自分たちの生活と密着したような形で学ぶというのが一番深い学びというか、容易に深いところまで行けるといふふうに思っている。
 - 委員 最近の私の問題意識は、やっぱりPISAショックがある。読解力は、全てのベースになる力だろうが、いわゆる学校教育のところですごく抜け落ちているところがあるのかもしれないと思っている。
 - 委員 小学生の算数のボランティアをやっているが、読解力の教育というよりも、自分で考えようとしなないという、答えがすぐ出ないものは、数字だけを適当に掛けたり割ったり足したりして、自分の頭で考えない子どもがたくさんいる。今の子どもの学びは、すごく深刻な状況ではないかと思っている。
 - 委員 子どもなりにいろんな社会にかかわりを持っている子は、ちゃんと自分の言葉で話せると感じている。社会にかかわっている、すなわち他者のためになっている経験があると、特に、自分が嫌な思いもする。しかし、そうした経験が一人一人の心の耕しになっていき、ある意味自分の言葉で語れるようになってくる。そういうことがとても必要だと実感として思っている。
 - 委員 ただ単に下がったというより、日本は変わっていないで、ほかの国が上がったというように私は捉えている。だから、他国の事情も踏まえた上で、今までの教育はどうだったのかということ問い直さなくてはいけない。今後どうしていくかというのは、皆で考えなきゃいけないことだが、社会教育でやることかもしれない。
 - 委員 私も読解力の話は結構衝撃的で、相手の立場に立って考えることがすごく大事だが、学校教育でやらなければならないことともう一つあると思っている。家庭の中でお父さん、お母さんが子どもに言う言葉は、二つしかない。一つは、「〇〇しなさい」という指示の言葉。もう一つは、「〇〇しないで」という禁止の言葉。この二つの言葉は、コミュニケーションではなく一方通行、つまり、言われた側の相手というのは、「はい」か「嫌」の2択しかない。「ごはん食べなさい」と言ったら、「はい」と食べる。「宿題しなさい」、「はい」とやる子供が頭のいい子どもになるわけではなく、言われたからやっているだけで実は頭は何にも使っていないと

というようなことがある。

たくさん人間関係の中でしか学べないこと。机上で何か覚えるとか、勉強するというのではない、誰かのために何かをすとか、それで嫌な思いをしたから次はどうしたらいいのかなど、自分の感情を抑えてみるとか、自分のやりたかったことを仲間と一緒に最後までやり遂げるとか。その一番の最小単位が家族だと思う。

でも、子育てが孤育てになってしまっている現状では、その非認知的能力というものを育めない。親子という「タテ」の関係だけではなくてお父さん、お母さん、昔はおじいちゃんもおばあちゃんもいて、おじさんやおばさん、お友達など、みんなが違うことを話している中で、自分はどうしたらいいのかということ、自分を自然と考えられるような環境が今はない。

そんな環境の中に、今、子供たちがいるのも一つ要因ではないかと思っっている。学校教育と家の中との両方が子供主体で考えていけるようなものをつくっていかないと、この読解力も含め、子供の本当の能力が育っていかないのではないかと思っっている。

- 議長 学校に行って帰ってくると、次はスマホ。スマホも考えなくて済むメディアなので、いくら時間を費やしてみても考えないことになる。
- 副議長 私たちは、教育の中で視覚と聴覚による情報でばかり頭でっかちになっている。つまり、味覚とか触覚とか嗅覚、こういう教育はほとんどされてないということが、今の教育に何か大きな影響を与えているのではないかと常々思っている。
- 委員 やはり自分の中で何かが起きないと、そうそう読解力が育まれないというのがよくわかったので、やはり地域でできることとしたら、他者となって子供たちとのかかわりを持っていくということだろうと思う。だから、地域の中で科学教育をどうするのかというのは大事だと改めて思う。
- 議長 そろそろ時間となってしまったが、活発な議論につながって、非常に良かった。では、次回会議についてお願いします。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 次回は、最近オープンした杉並区立就学前教育支援センター「すぎっこひろば」という施設を訪問したいと思う。この取り組みは、23区内、都内で初めてということもあり、そうした機会が提供されることもどこか視野に置きながら、そこも踏まえて、この地域でできることは何だろうとか、そういう話の手がかりとしていきたい。その視察は、後ほど日程調整をさせていただく。
- 議長 この就学前教育というのは、学校に入る前に認知スキルも非認知スキルもきちんと教育する必要があるということで、世界的には非常に大きな関心を集めている。杉並は第一例で、とてもおもしろいなと思う。
では、課長から最後に一言を。
(生涯学習推進課長 挨拶)
- 議長 これで終わりとする。